

非破壊検査装置製造

中国、タイに新工場

マークテック 世界トッププシエア狙う

非破壊検査や印字・マーキング用の装置、消耗剤を製造・販売するマークテック(本社・東京都大田区、社長・松川英文氏)は年内にタイ、中国に相次ぎ工場を新設する。現地で保守・点検業務など、総合展開し、鉄鋼メーカーなど顧客の海外生産に対応、製品品質保証などを後押しする。日韓の既存工場と合わせ世界4極生産体制を整える形で、現状約4割の大手。鋼材表面などに印字する産業用マーキングシステムでは約6割の国内トッププシエアを持つ。

は4月にゲートウェイシティー工業団地内(チャチェンサオ県)で工場を立ち上げる。将来的にはタイ国内のほかインドネシアやイン

ドなど周辺国への輸出拠点にも位置付ける。中国では上海市に工場を建設中で、5月に稼働予定。中国工場は主力の成田工場(千葉県成田市)と同じ規模で建設する。

両工場とも投資額は数億円。いずれも非破壊検査用の装置や消耗剤、印字・マーキング用の装置、ペイント(塗料)などを生産する。現地で保守・点検業務なども展開し競合他社と差別化を図る。同社によると15年までに非破壊検査装置の世界市場は10年比で約2割増の230億円規模に、マーキング装置は同約2割増の200億円規模に拡大する見通し。

同社の11年12月期(1~12月)の連結売上高は46億円。このうち3割強を鉄鋼関連が占める。プラントや自動車大手にも販売している。